

【栗国村】

校務DX計画

校務DX計画において、GIGAスクール構想で導入された端末の「標準仕様のツール」を活用した校務DXを推進していく。また、次世代校務支援システムについては、沖縄県教育委員会と連携して県域での導入に向けて連携を図っていく。

GIGAスクール構想で導入された1人1台端末の標準仕様のツールは、クラウドを活用前提となっている。また、「校務DXチェックリスト」の項目では、標準仕様のツールで実践可能な内容となっており、日々の校務改善に、標準仕様のツールをフル活用していき、働き方改革やペーパレス化にもつなげていく。

1. コミュニケーションツールの活用

チャットの利用で、校内の情報共有が簡易となり、クラウド活用のため非同期・分散で自分のタイミングで確認・返信、編集等が可能になる。例としては、校内での事務連絡等や個別の連絡にチャットを有効活用することで、即時共有が可能となる。これまで職員室に戻り連絡を確認するといった業務も縮小されていく。また、チャット上で共有した資料やリンクはチャットスペース上に保存され、後日、確認・編集等が可能となり、先生方の作業する時間も自己のタイミングで調整可能となり、業務時間の削減に繋がる。

2. クラウドツールの活用

チャット同様、標準仕様のクラウドツールを校務での利活用を促進する。例えば、表計算ソフト等での校務の進捗状況を把握、共同編集機能で、勤務の動態表等の作成、その他には、学校評価、学校内でのアンケートフォームの活用、カレンダー機能を活用した行事の共有等についても標準仕様のツールを活用することで、ペーパレス化の促進及び校内での確認・共有が容易となり、業務削減等にもつながる。また、ホームページ作成ツール等も活用し、学校のホームページ、校内研のサイト、各種委員会のサイトなど、情報を一元化し、情報共有を簡便にすることができる。

3. 校務DXチェックリスト

校務DXチェックリストの項目は、標準仕様のクラウドツールで十分対応可能となっており、クラウドツールの校務での利活用の促進を図るための教育委員会の研修や校内研と連携した研修の充実を図っていく。

4. FAX・押印について

FAXや押印については、市町村内の教頭先生、事務担当の先生方の部会を立ち上げ、FAXに関しては、クラウドサービスに移行。押印に関しては市町村内の文書管理規程の見直し、コミュニケーションツールでの代替及びシステム等の広域導入検討を行う。

5. 校務の授業の研修（校務と授業と研修が相似形になる利活用を促進）

導入されている標準仕様のクラウドツールを校務での活用をはじめ、研修でも利活用を促進し、そのノウハウを授業に活かすことが求められている。標準仕様のクラウドツールを校務、授業、研修など校務のあらゆる場面でも使えるよう実践を深めていく。

6. 校務での生成AIの利活用について

校務での生成AIの利活用を図る。まずは、日常の公文等の文章の添削、要約、学校アンケート等の分析活用。先生方の授業や授業外でのアイディア出しなど、先生方が校務で慣れるから活用までを想定し、研修会等も計画に実施していく。

7. 次世代校務支援システムの導入に向けて

沖縄県教育委員会と連携し、次世代校務支援システムの導入に向けて連携を図り、校務DXの推進を図っていく。

【栗国村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続けることが求められている。個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒が納得するやり方で進めていく。また一人で学ぶに時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、友達と対話を通し、またクラウド上で友達の考えを参照し、感化される場面等が想定される。

沖縄県義務教育課の「自立した学習者の育成」重点1では、「学習基盤としてのICT」による児童生徒の学びに主体性を育む取組の充実と記載されており、これまで以上に、1人1台端末やクラウド環境下での個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍で、休校等の中、オンライン授業や持ち帰りを通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。また、Google Workspace等を利用した校内での資料の共有や情報共有する仕組みも一定程度定着した。フォームを通じた欠席連絡やアンケート集計といった実践も増えており、コロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

一方で、学校間の利活用の差や学年間での利活用の差も出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、1人1台端末を活用した実践が不可欠である。校内でのミニ研修等の充実や校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広がっていくことが必要とされている。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末整備・更新にあたり、教職員の校務効率化と研修機会の充実を図り、クラウド環境の活用を促進する。これにより、授業内外での端末活用をさらに拡大し、児童生徒の学びを豊かにすることを目指す。

1人1台端末の日常的な活用に向けては、国の動向や県の動向を踏まえつつ、新しい授業観に合わせた理論的な研修を充実させる。端末の活用はあくまで手段であり、目的は児童生徒の学びを深めることにありという理解を深める。

具体的には、探究の学習過程や問題解決のプロセス(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表)を通して、端末の活用を促進する。学習者主体の授業では、児童生徒に委ねる場面が増え、学習形態も一斉型から個別型へと変化します。そこで、教科の学習においても探究の学習過程を取り入れ、各過程で児童生徒が1人1台端末を活用できる場を増やしていく。

児童生徒は、自己の課題に合わせて、教科書、資料集、NHK for schoolなどの動画、Webサイトなどから必要な情報を収集し、1人1台端末で整理・分析する。その際、友達と対話し、協働する。また、クラウド上で友達の考えを参照しながら学習を進める。整理・分析後は、友達と対話し、思考を整理します。必要に応じて、友達や先生と意見交換を行い、学習内容をまとめていく。

1人1台端末の活用による学びの保証に向けては、不登校児童生徒への支援については、オンライン授業の実施、Google Classroom等で授業資料を共有する。校内では、コミュニケーションツール等で連絡を密にして校内での体制を強化していく。

児童生徒への端末を活用した教育相談では、オンラインも併用した教育相談の実施、Google Classroom等も利用して、双方向型の教育相談も想定できる。

外国児童生徒に対する学習活動等の支援では、Google 翻訳や翻訳ツール等のアプリケーションも有効活用しながら学習活動を活かしていく。また、生成 AI 等も活用し、文書作成の支援や教師側の提示資料の作成等にも役立てていく。

障害のある児童生徒や特別な支援を要する児童生徒に応じた支援については、手書き入力でのテキスト変換機能、音声入力を活用したテキスト入力など支援の状況に応じた必要な環境を整え、支援の充実を図る。

利活用の方策や実践を推進するためには、県内外の先進地域の授業視察を行い、その取り組みから学び、自校の実践に活かしていきます。

沖縄県教育庁県立学校教育課教育 DX 推進室との連携による研修支援や授業改善、文部科学省学校 DX 戦略アドバイザーや GIGA StuDX 推進チームによる研修支援・授業支援なども計画し、1人1台端末の活用を促進していきます。